

JIRON KOHROH III

非対称なスパイ戦

国際ジャーナリスト

戸田光太郎



国防機密情報の不法所持

今年の1月16日に香港からニューヨークのケネディ国際空港に飛んできた中国人ジェリー・チュン・シン・リーがFBIに逮捕された。リーは香港在住で、米国に住居はない。

リー容疑者はなかなかのイケメンで53歳、国防機密情報の不法所持の疑いで、南部ヴァージニア州の連邦

地裁に送り込まれた。

そもそもこの容疑者は1994年から2007年までCIA、米国の中央情報局に所属していた。担当していたのは外国人スパイのリクルートだった。スパイはある種「消耗品」であるから定期的に充填して行く必要がある。

しかし、この終わりのないリクルート作業が続いているうちに、CIA内での出世が頭打ちになったことに腹を立ててリーはCIAを離れた。

この男、なんと直後に日本企業に転職している。ジェリー・チュン・シン・リーはCIAを辞めてから、JT日本たばこ産業株式会社の子会社、香港のJTインターナショナルで働いていたのである。JTインターナショナルはスイスのジュネーブに本社があるが、香港でリー容疑者は煙草の密輸や偽造に関する捜査を受け

持っていた。

ところが、リーが来てからというもの、調査中の積み荷が中国当局に突然差し押さえられたり、調査員が中国で逮捕されたりと中国側への情報漏洩を疑われて、リーは、JTインターナショナルから契約を解消された。

JTインターナショナルの元同僚は、リーが娘二人の家族を大切にし、地味な暮らしをしている一方でお金の事ばかり話し、架空の情報提供者に渡すと称する金を着服しているのではないかと疑われたり、CIAの手先ではないかと思われていたことや、中国の諜報員と接触していたと中国当局から通告されていたと明かしている。リーは極めて不人気な社員だったようだ。JTインターナショナルはこの一時期、香港を拠点とする捜査員の中国本土への出張を禁じた。

中国で抹殺された CIAのスパイ達

ちょうどこの頃、2010年から2012年にかけて中国の情報提供者が次々と抹殺されていた。20人ほどが処刑されたり収監されたりしたのである。CIAの中国におけるスパイ網は崩壊した。

スパイ網構築には時間と金がかかる。諜報活動に耐えられる人材を見つけ出し、リクルートして、教育し、現場へと徐々に浸透させていく。十数年間かけて構築して行くものだ。それがたつた2年で崩壊した。

中国人の諜報員は中国語が抜群に出て見た目が中国人で身ごなしも中国人風でなければならぬ。CIAはロサンゼルスやサンフランシスコで大々的なリクルートをかけて人集めをした。中国人に取っては割と

高額の年収を提示した上で、だ。しかし時間をかけて育てた優秀な者は更に高額の報酬を提示する敵、中国に寝返ったり、諜報活動を見破られ、抹殺されてしまう。

2012年、FBIとCIAはどのようにして情報源が中国側に漏れたか本格的に捜査を開始し、そこに元CIAのリーが浮かび上がってきたのである。CIAは架空のおいしいビジネス、高報酬のコンサルティング業務を餌にリーと家族をヴァージニア州北部に呼び寄せたが、その間、令状を取ってリーのホテルの部屋を搜索した。

そして二冊のノートが発見した。そこには手書きで中国の情報提供者やCIA職員の実名や連絡先、諜報活動のメモ、ミーティングの場所が記されていた。

しかし、ここは不思議な部分だが、CIAはこの時点ではリーを逮捕せず、泳がせることにした。彼の交友関係や接触する人々を探り、より多くの情報を集めるためであるとされている。

そして、この時点でリーを起訴すると情報提供者が抹殺されているこ

とにCIAとFBIが気付いて反応している事を中国側に知られたくなかったのでリーを放置した、という説もある。

そして5年間泳がせた拳句、今回のニューヨークでの逮捕となる。一体、何が変わったのか。謎は残る。

この間、リーは元香港の警察官とともにタバコに関する自分の調査会社を立ち上げ、タバコ業界の会合に顔を出したりするなど営業に励んだが結局は立ち行かなくなり、2014年には、この会社を潰してしまう。

リーは有名ブランドのエスティ・ローダに就職している。

その後、そこから英国のオークション・ハウスのクリスティーズに転職している。クリスティーズでは警備担当だった。

そしてニューヨークへ出張したところでFBIに逮捕されたのである。

ケネディー空港での逮捕から数週間が過ぎて、2月6日、ヴァージニア州のアレクサンドリアの連邦地裁に久し振りに、リーが姿を表した。

地裁は公選弁護士を指定してきしたが、リーは自費でマクマーホンとい

う弁護士を雇った。第二回の公判後、報道陣を前に弁護士マクマーホンは宣言した。「リー氏は断じて中国のスパイではない」テレビで観る限り、それほど優秀な弁護士には映っていない。

これだけ黒い噂がありながら、どうやらリーと中国で抹殺されたCIAの諜報員を結び付ける具体的な証拠はまだ出ていないようだ。容疑は「国防機密情報の不法所持」というもので、直接彼がスパイ行為をして掴まったわけではない。最長でも10年の刑となるという。中国で処刑された20人と結びつきは未だ謎だが、この刑はそれほど重い物には思えない。

2012年の段階で手書きノートが見つかったも、リーは収監されることはなかった。今、この放置された空白の5年間に対して議員達がFBIを糾弾している。操作方法や対応が間違っているのではないかと疑問を投げかけている。

リクルーターとしてはCIA在職中のリーが中国に浸透させた諜報員のリストを持っていたのも不思議ではないが、それを退職してからも保持していた事は「国防機密情報の不法

所持」に違いない。しかし、リーは本当にCIAを辞めていたのか、JTIインターナショナルは中国当局と接触するための隠れ蓑ではなかったのか、いや既に中国側に寝返っていたのか、疑問はいくつも残る。

去年、グレン・ダフィー・シュライバーというミシガン育ちの28歳の白人青年がCIAに応募してきた。グレンは社交的で運動神経が良く、子供の頃から国際情勢や外国語に強い関心を持つ優秀な学生で中国に留学し、働いた経験があり、中国語が喋れた。だが、CIAが慎重に経歴調査を進めると、グレンは中国から送り込まれた工作員である疑いが強まった。そして嘘発見器による面接の段階になるとグレンは狼狽し、急に応募を取り下げた。グレンは中国の工作員としてCIAに潜入を試みた罪で禁錮4年の実刑を受けた。ついに中国はアジア系の工作員だけではなく、白人工作員まで送り込む実力を持つに至っている。

何れにしても民主主義国家と謳う米国にとっては共産主義の独裁的な国家とのスパイ戦は、いかにも分が悪いのである。